

2 月度 ^{例会} 個人 山行報告書		報告者	白井	参加 メンバー	CL(全体): 織機 井樋氏 CL(DN内): 神戸 SL(DN内): 田口 松浦、白井 各社含め合計十数人
		報告日	3/10		
山 域	飛騨山脈南部	山行日	15年 2月 21日 (土)		
山 名	乗鞍岳				

山行目的	全豊田山岳連盟 登山・スキー大会	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	------------------	--------------------

配布先
集会:12
山行: 1
リーダー
原紙: 集
会担当者



2/27 快晴
8:20 金山ヒュッテ発
9:25 リフト最高地点
(わかん装着)
10:40 一本・写真撮影
11:45 トイレ小屋
12:30 肩の小屋
(アイゼン・ピッケル装着)
13:30 山頂着
14:00 山頂発
16:00 リフト最高地点
17:00 下山



〈山行報告〉全豊田岳連のスキー大会前の初日は、ゲレンデスキー、山スキー、アイスクライミング、乗鞍登山に別れて楽しんだ。デンソーからは4人が乗鞍登山に参加した。
 天気は快晴。こんな天気なかなかないと先輩方がしきりに仰っていました。あまりの暑さに開始後20分でジャケットを脱ぐほどでした。肩の小屋まではのんびりとしたペースで進む。わかん歩行は、思ったよりも雪に沈む、また踵が固定されているため思ったよりも疲れる。スノーシューを持ってきていた織機メンバを見るに、乗鞍の緩やかな斜面であれば、スノーシューのほうが楽かもしれないと感じた。
 肩の小屋からは、ピッケル、アイゼンを装着し氷の斜面に挑む。予想以上の急斜面と硬い氷に、正直雪山を舐めていたことを思い知る。先を歩く先輩方がいなければ道とすら認識できなかったかもしれない。でも、ここでギブアップする気は無く先輩方の足の運びを参考にしながら登っていく。だだ、慣れない足の運びに足に乳酸が溜っていく。斜面の途中で休憩しようと体勢を変えたら滑ってしまった。滑っても1m下で止まるのは把握していたが、ここまで簡単に滑るとは想定しておらず凍った斜面の怖さを思い知った。神戸 CL に戻ろうと言われたが、何とか頼んで続行させて頂く。その後は慎重に足を進め、少し遅れるもののなんとか登頂を達成。山頂からは雲の殆ど無い山々が眺められた。

下りは、位ヶ原に直接降りる距離は短いが急なコースと、来た道に戻るコースに分かれる。スキルに不安のあった自分は来た道に戻る。後から聞くと、位ヶ原に直接降りるコースは想像以上に氷が硬くて危険な場面があったと聞いた。大事に至らず本当によかったと思う。
 雪山の楽しさを知ると同時に、事前の準備(雪上訓練)の大切さを知った山行であった。

〈リーダー所見〉自分自身は初めて乗鞍の肩の小屋から凍った斜面を見た時素人には無理と判断したが、今回は若い人の実力を見るのに丁度いい条件と思い行ってもらった。今回はなかなかできない硬い氷上の斜面でのアイゼン歩行練習が目的であったはず。練習なしに登頂できてしまった今回は実力でなく偶然だと思って欲しい。リーダーとしては安全サイドに判断すべきだったが肩の小屋方面ならと思い、判断が正しかったか迷います。



確認
(リーダー)
神
15/03/08
戸
作成
(報告者)
白
15/3/6
井